

豊かな思いをつくる図画工作科の学習

—第6学年の実践を通して—

加藤 潔 己

1 豊かな感性を育むために

子ども達が、本当にしたいことを没頭して、しかもこだわりをもってやりとげることができる授業づくりを考えていくとき、子ども達の内発的な動機からはじまる題材選び、題材開発の研究をすすめることが大切であろう。内発的な動機とは、一人ひとりの子ども達の願いや思いから始まるものであり、特に「思い」がふくらみ、広がり、深まる可能性をもった題材の開発、研究について、本年度、研究の視点として取り組んできた。研究の対象学年を6学年とし、6学年児童の発達段階の実態、日々の生活実態を考慮し、本校6学年児童がその「思い」をふくらませ、広げ、深めることができると考えられる題材について、指導を実施し、仮説検証してみた。

平成6年度は研究テーマ（豊かな感性を育む）にサブテーマ（副題）を加えた。

サブテーマ

豊かな思いをつくる図画工作科の学習の在り方

2 研究の仮説

一人一人が表現の思いを持って関わるのが期待できるものを題材として、授業を構成するならば、子ども達は、その題材による学習を自分のものとして受けとめ、こだわりを持って表現活動を追求するであろう。

3 題材

① クラフト製作（木のペンダント作り）

1学期、5月中旬に道後山で実施する集団宿泊学習「山の学習」のクラフト製作。

② 動くアートに挑戦

第100回東雲教育研究会（6月）での公開授業。

（本校教育研究会発行 初等教育 第62号掲載 本稿では省略）

③ 自分の感動や思いを絵巻物に

修学旅行（9月15～17日）の思い出を絵巻物で表現する。

④ ユニフォームを作ろう

11月から6学年（養護学級は除く）で取り組むバスケットボールリーグ戦のユニフォームづくり。

4 指導事例(1) 山の学習「木のペンダントを作ろう」

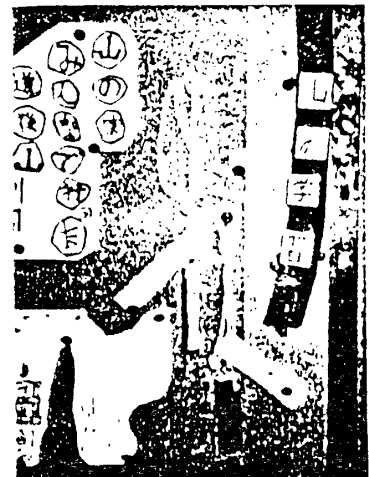
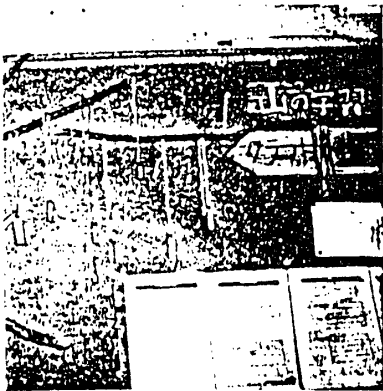
本校では、第6学年の行事として「山の学習」が毎年5月に実施される。その目的は
①自然の雄大さ、神秘にふれ、豊かな情操を養う。②共同生活を実地に体験し、規律ある生活態度の育成を図る。③各教科の学習を生かし、総合的な学習の育成を図る。
である。図工科では、ふだん、なかなか味わえない山の自然環境の中で、自然物にふれ、山を感じながら、自然の素材を生かしたクラフトづくりをすることを設定した。

・道後山の自然の枯れ木、枝を使って思い思いにペンダントづくりをする。

- 1 山で枯れ木、枝を拾う。
- 2 のこぎりを使い、適当な長さに切る。
- 3 皮を剥ぎ、サンドペーパーで磨く。
- 4 ロウを塗り、布で磨く。
- 5 ヒートンを取り付ける。
- 6 目玉（手芸用）を接着剤でつける。
- 7 ひもをヒートンに通す。



子ども達は、自ら体験した山の生活のなかで、自分たちが集めた枝ということもあり、集中してクラフトづくりに取り組んだ。作ったものを自分のかざりとしてでなく、親や兄弟、学校の縦割り班の下級生にプレゼントするなど他の人にあげて喜んでもらえることに満足していた。



4 指導事例(2) 「自分の感動や思いを絵巻物に」

① 題材について

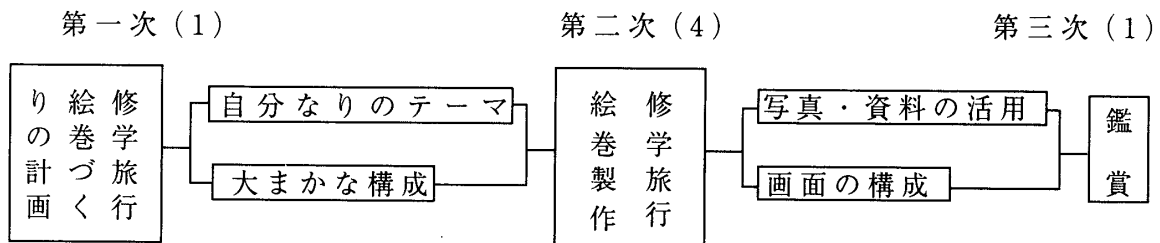
6年生の子ども達にとって、修学旅行は小学校生活のなかでも最も待ち遠しく、楽しい行事のひとつであろう。また卒業してからも一番の思い出になりうるものでもあると思われる。それだけ関心が高く、期待も大きい修学旅行は、一人ひとりの子ども達に自分なりの思いを持ち、ふくらませることができる題材であると考ええる。

事前のアンケートで、子ども達が修学旅行で楽しみにしていること、早く見てみたいものには、別府地獄めぐりや阿蘇山などの自然、熊本城や吉野ヶ里遺跡などの歴史・文化遺産などの見学地、また、バスの中、ホテルの部屋やクワハウスなどで友だちとともに過ごすこと、あるいはみやげ物・特産品、食事などと子ども達にそれぞれの思いがあることが分かった。そこで旅行の思い出を絵巻物にして残すこと、そして、自分なりの絵巻物のテーマを考えることを提案したい。また一人ひとりがテーマにあわせて、取材できるように、旅行中のレンズつきフィルム（一人一個）の使用を設定した。

② 指導目標

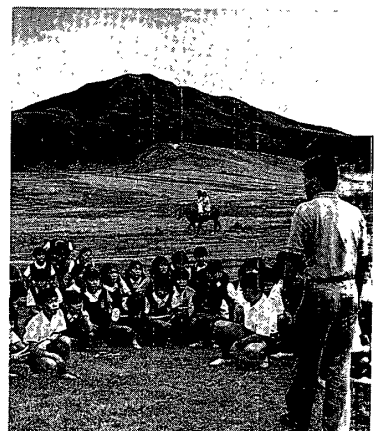
1. 自分なりのテーマにそって、修学旅行を絵巻物に表すことができるようにする。
2. 表したい感じが表れるように、画面の構成を考え、写真やパンフレットなどの資料を効果的に生かすことができるようにする。
3. 自分や友達の工夫・発想のよさに気づき互いに認め合う態度を養う。

③ 指導内容と計画……………6時間（本時 第二次 第1時）



④ 授業設計の焦点

子ども達は旅行で取材・収集した資料として、写真、パンフレット、絵はがきなどをもとに、製作を進めていく。絵巻物の自分なりのテーマに応じて、資料から必要なものを選んだり、構成を練り直したりすることが必要になる。また表したい自分の感動や思いを表すのに、デフォルメしたり、取捨したりすることにも気づかせたい。本時では、作品例を鑑賞する場を設けて、絵巻物の製作で自分のテーマや思いに応じて表す工夫について見通しを持つことができるようにしたい。



⑤ 本時の目標

自分のテーマや思いに応じて、絵巻物の製作に資料の活用や表す工夫をすることについて考えることができる。



⑥ 準備物

(教師) 作品例, 実物投影機

(児童) 写真, パンフレット

⑦ 評価の観点

造形への関心・意欲・態度	自分のテーマや思いをもち、絵巻物の製作をしようとしている。
発想や構想の能力	表したい思いに応じて、自分らしい表現の構想をしようとしている。
創造的な技能	表したい思いのイメージを自分らしい技能をはたらかせて表現を工夫しようとしている。
鑑賞の能力	自分の表現を温め、その喜びを味わおうとしている。

⑧ 学習の展開

学習活動	指導・支援活動
1 作品例を鑑賞し、テーマや思いに応じて工夫できることに気づく。	1 ◎2つの作品例を比べて見せることによって、テーマや思い(感動)を表現するための工夫ができることに気づかせる。 ・デフォルメ ・構成
2 本時のめあてを確認する。	2 自分のテーマや表したい思いに応じて絵巻物づくりに取り組むことを確認させる。
3 絵巻物の製作にとりかかる。	3 自分のテーマに応じた絵巻物の製作の見通しを持たせるために、次の点に留意した支援の働きかけを個別にする。 ・写真, パンフレット, 絵はがき, しおりなどの資料の取捨選択 ・資料そのものの切り抜き・添付 ・資料をもとにした絵画表現の工夫 ・文章表現の工夫 ・レイアウトの工夫
4 製作をふりかえる。	4 ◎絵巻物として自分の大切な思い出を残し、何年か後の自分に贈るつもりで取り組めるようにことばかけ(補充提案)をする。
5 後片づけをする。	5 資料を整理し、大切に片づけるようにさせる。

⑨ 授業分析

ア 授業仮説

授 業	表現の思いを持って関わる事が期待できる修学旅行を題材として、テーマや自分の思いを表す工夫について気づく場を設定すれば、
仮 説	絵巻物の製作を進めるなかで、自分のテーマや思いに応じて表す工夫について見通しを持つことができるであろう。

イ 分析の視点

A 表現の工夫に気づく場の設定は、表現の見通しをもたせるために有効であったか。

B 修学旅行は、豊かな思いをもってかかわれる題材であったか。

ウ 分析

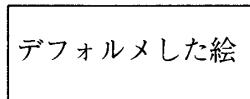
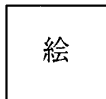
・視点Aについて

◎表現の工夫に気づかせる場の設定

資料①

資料②

の比較により、その風景の広がり強調した工夫を提示した。

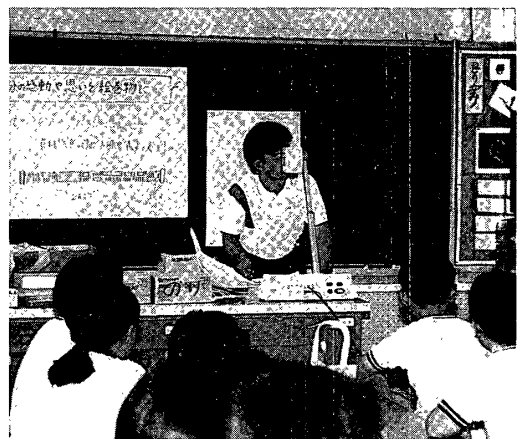


→実物投影機による資料の絵の提示により児童の集中を高めることができ表現の工夫について、見通しをもつことができた。

◎構成メモの使用、前年度卒業生の作品の提示

→抽出児童の観察から

A児	旅行の思い出をたどり、思いを温める過程であった。振り返りの場でメモをかく意欲を見せている。
B児	自分の写真がなかったが、製作意欲を示し、メモを終わりまでかいた。
C児	テーマにこだわり、アイデアが浮かびにくい様子。見通しはもてた。



→表現の見通しをもたせるために有効であったと考えられる。

・視点Bについて

→多くの子ども達が期待していた修学旅行は事前のテーマ設定を行うことで、旅行中の取材に主体性をも

たせ得たことなど、旅行後、その楽しさを今一度振り返らせ、思いをふくらませ得たことなど、子どもの思いを大切にすることに十分な題材であったと考えられる。

→教師の子どもの時のノートの提示は小学校生活での思い出のひとつの出来事をさらに一生の宝物にしようとする働きかけになり子ども達も魅力的なものとして受けとめたと考えられる。

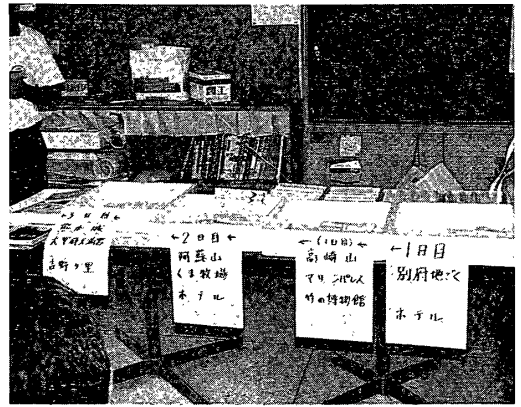
⑩ 成果と課題

ア 修学旅行の思い出を、巻物の形に表現することに限定したが、とくに巻物に写真を貼ることを考えるなら、巻いていく巻物より、アルバム状のもののほうが適切ではなかったかと思われる。

子ども独自の表現方法を考えさせる場づくりも必要であろう。

イ テーマの設定は旅行中の取材活動にめあてをもたせるには有効であったと考えるが、実際の旅行の日程の動きの中では、必ずしもテーマにそってじっくりと取材することができない児童もあり、あらかじめ決めたテーマでの製作が難しかったようである。

また、実際には思い出になることをすべて書き留めていきたいという児童が多く、テーマの絞り込みすぎやテーマの変更についての配慮が必要であろう。



あらかじめ設定されたテーマ			
自然の不思議	10%	友達ウォッチング	30%
風景	10%	動物	10%
特産品・おみやげ	10%	料理	5%
ホテル	5%		
歴史・文化	20%		
実際の絵巻物づくりに設定されたテーマ			
紀行文的なもの	50%	自然・風景	10%
友達ウォッチング	20%	歴史・文化	10%
動物ウォッチング	10%		

ウ 素材と用具を、巻物の奉書紙と色マジックのみ教師サイドで用意したが、様々な表現方法に気づかせるように、教卓に、例えば霧吹き、画用紙、墨などを用意する支援も考えられる。その場合、今までに体験してきた造形体験をフルに活用できる場の設定であることが望ましいと考える。

エ 本題材は、「総合的な学習」が展開できる可能性を備え、様々な活動が包含されたバランスのとれた題材であり、図工科にこだわらず、「図画工作科 発 総合的な学習」ととらえ、文章の指導など、合科的に指導できる。

(広島大学学校教育学部 若元澄男先生より)



指導事例(4) 「ユニフォームを作ろう」(この題材は教育実習時、実習生と共同指導をした。)

① 題材について

題材 ユニフォームを作ろう

題材について

自分達でユニフォームをデザインし、製作することは、子ども達の製作に対する意欲、関心を高めることができると考えられる。また、油性ペン、油性パスなどを使うことによって比較的容易に自分たちの思いを表現することができる。さらに、製作後、実際に身につける喜びを味わうことができ、完成後も作品を大切に育てる態度を養うことができる。

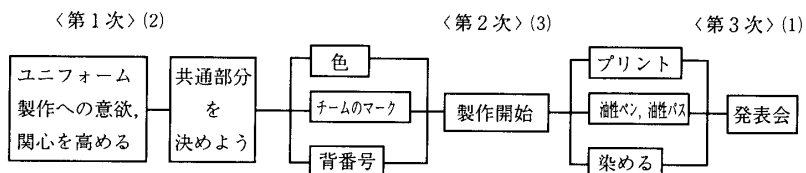
本学級の子供たちは6年生全体で行われるバスケットのリーグ戦を控えておりそれに対する関心は極めて大きい。休憩時間、体育の授業でもバスケットに意欲的に取り組んでいる。そこで、本単元はバスケットリーグに向けての児童の興味、関心をより一層のクラスの団結の方向へと高めるための動機付けとしたい。

チームのユニフォームということから、ある程度のデザインの統一性が要求される。またその限られた中で児童のひとりひとりの個性的な表現も保障したい。また、作品完成の後もリーグ戦において実際に着用するという使用目的を意識させ作品の製作に取り組ませるように考えた。

指導目標

- 1 布の上での、プリントなどを使った表現活動を楽しみ、自分の思いを表現する喜びを味わわせる。
- 2 自分の作品を大切にしようとする態度を育てる。
- 3 ユニフォームの製作を通して共通な目標へ向かっての友達との連帯感を育てる。

指導計画と内容 全6時間(本時、第1次 第1時)



業設定の焦点

本時では導入の段階で児童になじみのある様々なユニフォームを見せることにより、自分たちのユニフォーム製作の意欲を高めさせる。そして活動の見通しをもたせるために、チームの共通部分のデザインはチームごとの話し合いによって決めること、また共通部分以外に個人のデザインを入れることができることを知らせる。

本時の目標

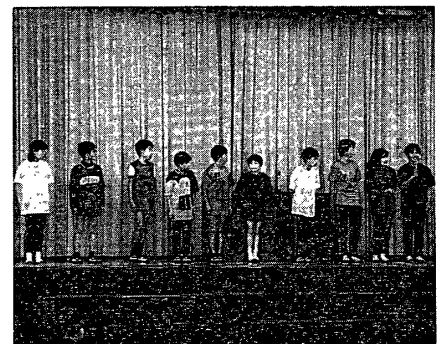
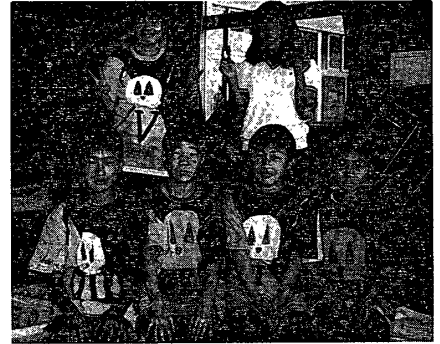
自分たちのユニホーム作りに意欲的に取り組み、共通部分のデザインを考えることができる。

準備 Tシャツ(例示用3枚)画用紙(例示用数枚)ユニホーム1枚 デザイン用紙



② 学習の展開

学 習 活 動	指 導・支 援 活 動
1 ユニフォーム当てクイズをする。 ・チーム名 ・背番号 ・マーク 2 本時のめあてをつかむ。	1 ユニフォームのデザイン上の要素について気づかせるために、児童になじみのあるプロスポーツチームのユニフォーム等を提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> バスケットリーグ戦にむけてのユニフォームのデザインを考えよう。 </div>	
3 チームごとに、ユニフォームのデザインについて考える。 4 デザインを紹介しあう。	3 共通部分のデザインと個人のデザインの両面について考えさせるために参考作品をいくつか提示する。 4 途中までのデザインでも、お互いに見合うことによって、他のチームのデザインのよさに気づいたり、取り入れたりさせる。



③ 成果と課題

「ユニフォームづくり」は、6学年行事のバスケットリーグ戦という、学校生活の中に位置づけることができ、子ども達は非常に意欲を持って製作を続けることができたように思われる。特に作品づくりが子ども達にとって、必然性のあるものとなり得たためであろう。6学年のこの期の子ども達にとって、スポーツ行事は自分たちの「思い」が入りやすく、チームという仲間集団のユニフォームには、それぞれ様々な「思い」がふくむ可能性があり、題材として好ましかったと考える。

しかし、実際の製作上の技術的な面で課題が残る。

ア 白無地のTシャツを赤、青、黒の地にする場合に、染色の方法を取り入れたが、染色法に煮染め法をする場合の器具（鍋とカセットコンロ）の準備と安全性、経費の問題。

イ 布用絵の具、布用インクでの彩色の時のにじみ、はみ出た部分、うっかり間違えた場合の修正の方法、また、裏うつりをふせぐためTシャツのなかに入れる型紙等の問題。

ウ できあがった作品を洗濯する場合、色落ちや他の洗濯物への色うつりの問題。

以上、技術面での課題を挙げてみた。今後、この面の研究をすすめる必要がある。